

2015.4.20(3)

リハビリテーション看護論

担当: 佐藤幹代



本日の講義目標



<学習目標2.>

リハビリテーションを必要とする生活機能障害を抱えて生きている人々の身体的・心理的社会的特徴を深く理解できる。

→「当事者(患者・家族)の語り」から生活機能障害とともに生きる対象を理解できる。

本日の講義目標



<学習目標4.>

(演習を通して)リハビリテーションにおける看護過程の展開および看護実践能力を身につけることができる。

→生活機能障害を抱える人に対し、リハビリテーションに関するアセスメントの視点を持ち、評価することができる。

<ICFの概念>

障害や疾病の状態についての共通理解を持つ

	第1部:生活機能と障害		第2部:背景因子	
構成要素	心身機能・ 身体構造	活動・参加	環境因子	個人因子
領域	心身機能 身体構造	生活・人生領域 【課題, 行為】	生活機能と障害 への 外的影響	生活機能と障害 への 内的影響
構成概念	心身機能の変化 【生理的】 身体構造の変化 【解剖学的】	能力 標準的環境にお ける課題の遂行 実行状況 現在の環境にお ける課題の遂行	物的環境や社会 的環境, 人々の 社会的な態度に よる環境の特徴 がもつ促進的あ るいは阻害的な 影響力	個人的な特徴の 影響力
肯定的側面	機能的・構造的 統合性	活動 参加	促進因子	非該当
	生活機能			
否定的側面	機能障害 【構造障害を含む】	活動制限 参加制約	阻害因子	非該当
	障害			

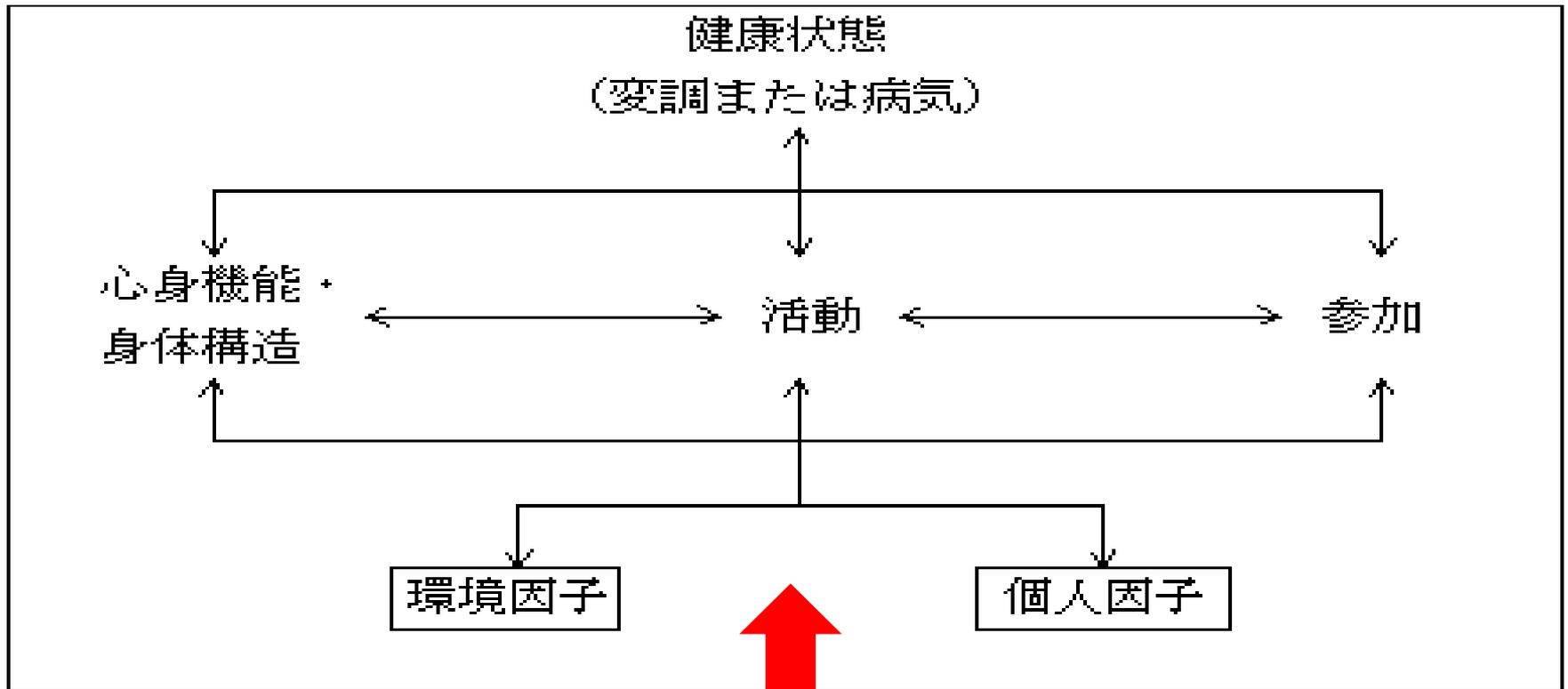
ICFモデルによるアセスメントの視点

③参加/参加制約

➤参加:生活・人生場面への関わり ⇔ 制約

活動・参加を評価する時、当事者との協働的なパートナーシップによる「アセスメント」が重要となる。
本人が生活体験をどのように認識しているかという本人の主観的な評価が重要。

ICFの構成要素間の相互作用



主観的体験

患者が体験しているであろう世界に近づく

主観的障害(心理面)のアセスメント

患者が体験しているであろう世界に近づく

➤ 評価項目

- ・ボディ・イメージ 身体的喪失感
健康観 死生観
- ・生活信条 信仰
- ・治療やリハビリの受け入れ 障害に対する偏見
- ・生活上の不自由感
- ・他者に対する信頼感 周囲からの疎外感
- ・受容やQOL 意欲 希望・意志



本日の講義目標ー2



<学習目標2.>

リハビリテーションを必要とする生活機能障害を抱えて生きている人々の身体的・心理的社会的特徴を深く理解できる。

→「当事者(患者・家族)の語り」から生活機能障害とともに生きる対象を理解する。

教科書p21～37

フランス トゥールーズ第2大学

- <http://www2m.biglobe.ne.jp/~ZenTech/world/map/france/Map-Toulouse-Link.htm>



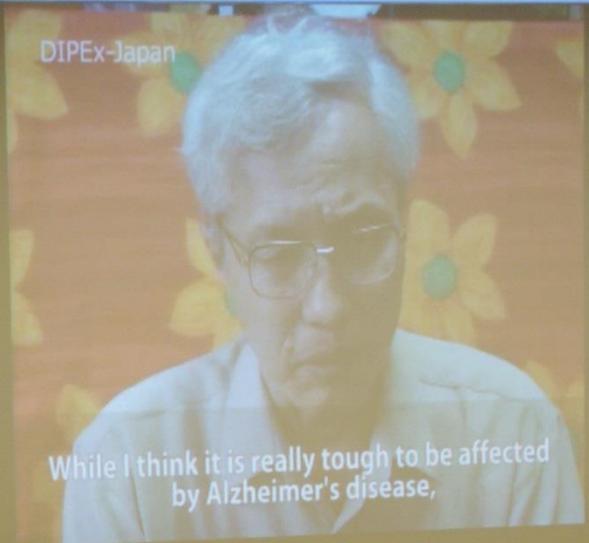
Detachment and Retake within the Context of Patient Narratives of Dementia in Japan

Mikiyo Sato^{1,2} and Rika Sakuma Sato¹
¹DIPEX-Japan, ²Tokai University

his own character. I just want others to understand that people with Alzheimer's disease can live his own life.

DIPEX-Japan

While I think it is really tough to be affected by Alzheimer's disease,



DIPEx

(Database of Individual Patient Experiences)

<http://healthtalkonline.org/>

The screenshot shows the website's navigation menu with categories: Home, People's Experiences, Young People's Experiences, Health Professionals, and Learning & Teaching. Below this is a secondary menu with links for About, The research, News & Blog, Get involved, Scrapbooks, Register, and Login. The main header features the healthtalkonline.org and youthhealthtalk.org logos, along with accreditation logos for Health & care information you can trust and the University of Oxford. A navigation bar includes A-Z, Categories, Young people, a search bar, and a Search button. The main content area is titled 'Home' and features a 'People's experiences' section with the text: 'Information and support from other people, in the same situation.' Below this, a 'Related:' section lists: 'Find out how we can help you', 'Friends, family and carers', and 'NEW: Living with and beyond cancer'. A large image of two smiling women is displayed on the right. On the far right, there are vertical buttons for 'Make a donation' and 'Feedback'. The page number '12' is visible in the bottom right corner.

I keep telling myself, that each one of us is trying to live out his own character. I just want others to understand that people with Alzheimer's disease can live his own life.

DIPEX-Japan

While I think it is really tough to be affected by Alzheimer's disease,

健康と病いの語り

<http://www.dipex-j.org/>

ディベックス・ジャパン | 健康と病いの語り



認定NPO法人 健康と病いの語り ディベックス・ジャパン
がんや認知症の体験談を動画や音声でお届けしています

はじめての方へ

お問い合わせ

会員専用ページ

「健康と病いの語り」とは

ディベックス・ジャパンについて



健康と病いの語り

認知症の語り
dementia

乳がんの語り
breast cancer

前立腺がんの語り
prostate cancer

大腸がん検診の語り
bowel screening

健康と病いの語り

健康と病いの語りデータベース・DIPEXとは？
患者ひとり1人の病気体験のデータベース

Database of Individual Patient Experience
データベース ひとり一人 患者 体験

「健康と病いの語り」データベースは、病気の診断を受けた人やその家族が、同じような経験をした人たちの「語り」に触れて、病気と向き合う勇気と知恵を身につけるために作られたウェブサイトです。
診断時の思いや治療法の選択、副作用の経験などが、映像や音声、テキストを通じて語られています。目の前にいる患者さんが何を思うのかを知るために、医療者の方々もぜひご覧ください。

SNSで共有する



ディベックス・ジャパン
公式facebookページ

認知症本人と家族介護者の語り

若年性認知症と体験した7名の方と、認知症の家族介護者35名の「語り」映像・音声・テキストを見ることができます。

語りを見る



乳がんの語り

乳がんを体験した70才代から70才代の女性48名と男性1名の「語り」映像・音声・テキストを見ることができます。

語りを見る



前立腺がんの語り

前立腺がんを体験した50才代から80才代の49名の「語り」映像・音声・テキストを見ることができます。

語りを見る



大腸がん検診の語り

大腸がん検診について、異なる立場の方35名の「語り」映像・音声・テキストを見ることができます。

語りを見る



認定NPO法人 健康と病いの語りディベックスジャパンに



参加する



支援する



寄付する

お知らせ

お知らせ一覧

利用方法のご注意

「語り」データベースの目的

- 患者さんに病気と向き合うための情報とこころの支えを提供
- 家族、職場など周囲の人々に病を患うということがどういうことかなのかを知ってもらう
- 医療学系学生の教育や医療者の継続教育に活用
- 研究者や政策立案者、ジャーナリストが活用

「健康と病いの語りディペックス・ジャパン」(通称: DIPEx-Japan) とは？

- 2001年に英国Oxford大学で生まれた「患者体験」のデータベース=Database of Individual Patient Experiencesの略
- がんだけでなく脳・神経、心、慢性疾患など様々な病気や医療の体験が集められており、3,000人近い人々の語りが収録されている。



- この団体は、医療者や研究者、ジャーナリストなど、専門家ばかりでなく、患者当事者やその家族、よりよい医療の実現をめざす一般の方々など、様々な立場の人が集まって構成
- それぞれの視点から「健康と病いの語り」が持つ力に着目し、望ましい活用のあり方を模索。

健康と病いの語り HP引用 : <http://www.dipex-j.org/>

語りのデータベースの特徴

- 体験者の生の声を映像・音声・テキストを通じて伝える
- トピックごと、語り手の年齢ごとに分類されていて、キーワード検索ができる

健康と病いの語り HP引用 : <http://www.dipex-j.org/>

私のがん、ウェブで語る

- がん(乳がん・前立腺)
患者の語り
- 一つの語り 3分程度
- コンテンツ400以上
- ウェブサイト 紹介



乳がん・前立腺がんの体験者のみなさん、あなたの体験を語ってみませんか？

「がん患者の語り」データベース インタビュー

- ・最初に診断を聞いたとき、何を考えましたか？
- ・家族や友人の反応はどうでしたか？
- ・どんな言葉に励まされましたか？
- ・どんな言葉に傷つきましたか？
- ・病気と向き合う上で、もっとも役に立ったのはどんな情報でしたか？



からだ、心、パートナーとの関係

- 右乳房切除術

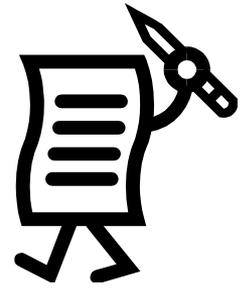
20代

30代

40代



4月27(月)の授業に使用



- レポート内容: 別紙配布
- 方法: A4 1枚程度、10.5ポイント、文字制限なし

来週までの課題

1. 「健康と病いの語り」HP閲覧
2. レポート作成
3. 討議 自分の考えを整理する



<文献・資料>

<教科書>

1. 落合芙美子(2015)新体系看護学全書 リハビリテーション看護 p21-37,p114-122,p146-161

<引用文献>

- 1) 落合芙美子(2007)新体系看護学全書 リハビリテーション看護p94-115.
- 2) ARN(アメリカリハビリテーション看護協会)編 監訳:奥宮暁子(2006):リハビリテーション看護の実践 概念と専門性を示すARNのコアカリキュラム、日本看護協会出版会.
- 3) 石鍋圭子ほか(2008)専門性を高める継続教育 リハビリテーション看護実践テキスト
- 4) 上田敏(2009):ICF(国際生活機能分類の理解と活用)- 人が生きることの困難(障害)をどうとらえるか、萌文社.
- 5) 千住秀明(2008):理学療法テキストⅡ 理学療法評価法 第2版、神凌文庫.
- 6) 井上貴央監修(2003):カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店.
- 7) 国際生活機能分類-国際障害分類改日本語版)の厚生労働省訳(2001):(<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html>)
- 8) NPO 健康と病いの語り ディペックス・ジャパンHP(2014): <http://www.dipex-j.org/bc/>
- 9) 佐久間りか(2009):厚生労働省研究費研究, がん患者の語りデータベース研究班報告会、講演会資料, 個人蔵書.
- 9) * HPの引用はスライド中に表記